



植物

【植生】

- ◆本県の森林面積は、1,052km²と土地利用面積の46.2%を占めており、森林生態系を構成するイタジイ等の森林は、水源の涵養や土砂流出等の災害防止、自然環境や生活環境の保全、木材等の供給など多面的な機能を有しており、県民生活に重要な役割を果たしています。
- ◆沖縄島北部地域には、主に粘板岩などの風化した土壌を土台に、イタジイが優占するオキナワシキミースダジイ(イタジイ)群集が広範囲に分布しています。風の強い山頂部等には、オキナワテイショウソウマテバシイ群集が、山麓部ではオキナワウラシロガシが優占した林分もみられます。
- ◆沖縄島中南部は古くから集落が発達し、耕地化が進んでいるため、自然植生は戦禍をまぬがれた御嶽林や断層崖に残る林分のみとなっています。同じ常緑広葉樹林でも北部のシイ型の森林とは違い、リュウキュウガキ・ガジュマルなどで特徴づけられるリュウキュウガキナガミボチョウジ群団の植生であり、この植生は隆起サンゴ礁や泥岩等を基盤にもつ地域に共通の植生です。
- ◆宮古諸島のほとんどの地域は、さとうきび畑等の耕作地として利用されています。自然植生は、海岸付近の断崖、御嶽等に分布するのみとなっており、宮古島の北西から南東方向に走る断層崖の尾根筋に残っています。
- ◆石垣島と西表島の丘陵地から山地にかけては、亜熱帯常緑広葉樹林のケナガエサカキースダジイ群集のシイ林が生育し、西表島では樹高が15mに達する密林が形成されています。山麓部には、オキナワウラシロガシ群集などが生育し、局所的にはヤエヤマヤシ林も分布しています。



森林植生(本島北部)



於茂登岳(石垣島)

【植物相】

- ◆植物相をみると、琉球列島に自生する維管束植物は約1,600種であり、日本本土の植物相と比較すると、単位面積当たりで琉球列島は日本本土の45倍も種数が増えており、琉球列島の植物相は、種数が豊富です。また、各分類群の構成種を比較すると、琉球列島はシダ植物の占める割合が大きい一方、裸子植物の種数がきわめて少なく、これはこの地域が亜熱帯気候にあることと関係しています。
- ◆沖縄島北部地域の自然度の高い森林には、オキナワセッコクやクニガミトンボソウなど、固有な植物が生育しています。
- ◆石垣島や西表島の森林には、ヤエヤマカンアオイやヤエヤマクマガイソウなど、宮古島の海岸付近にはイラブナスビやインドヒモカズラ、沖縄島及

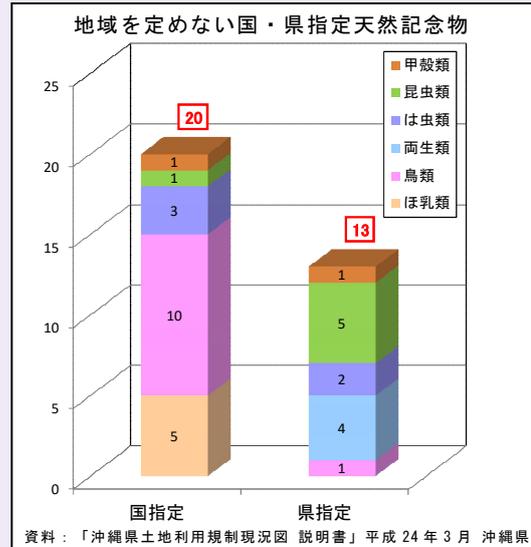


オキナワセッコク

び離島に分布するマングローブ林にはオヒルギやメヒルギ、ハマジンチョウなどのマングローブ域特有の植物が生育しています。

動物

◆本県は多くの島しょに分かれ、過去に幾度にもわたる陸地化や水没を経る地誌的变化を経たことから、固有種や分布上の北限あるいは南限とする種を多数含み、「東洋のガラパゴス」として世界的にも注目されています。中でも特別天然記念物としてイリオモテヤマネコ、ノグチゲラ、カンムリワシ、アホウドリ、天然記念物としてケナガネズミ、ヤンバルクイナ、ヤンバルテナゴコガネ等の計13種が国より指定されており、種を対象とした国指定天然記念物(特別天然記念物含む)の2割以上が本県に生息しています。



【哺乳類】

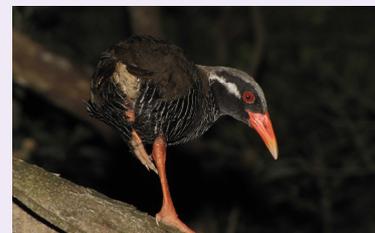
◆沖縄島・石垣島・西表島の森林にはオキナワトゲネズミや全長60cmに達する日本最大のケナガネズミ、ヤエヤマオオコウモリ、県内の平地や低地にはオオコウモリ類やハツカネズミ類が生息しています。そのほか、北・南大東島にダイトウオオコウモリ、慶良間諸島にケラマジカ、西表島にイリオモテヤマネコやカグラコウモリ等が生息しています。



ケナガネズミ

【鳥類】

◆沖縄島北部地域の山地には、大木に穴をあけ営巣するノグチゲラや、夜間に樹上で休息するヤンバルクイナ、リュウキュウオオコノハズク等、固有種を含む多くの森林性の鳥類が生息しており、沖縄島中南部地域の低地では、樹林にメジロやシジュウカラ等、田畑や草地にミフウズラ、湿地にはリュウキュウヨシゴイなどがみられます。



ヤンバルクイナ

◆宮古諸島にはキンバト、カラスバト、ズグロミゾゴイ、石垣島・西表島の森林にはリュウキュウキビタキやカンムリワシ等が生息しています。平野部の湿地や水田にはムラサキサギ等が採餌に訪れます。



カンムリワシ

◆沖縄県内は渡り鳥の中継地でもあり、秋にはサシバやアカハラダカのほか、アジサシ類やクロツラヘラサギ等が一時的な飛来地として利用しています。



リュウキュウヤマガメ

【爬虫類】

◆沖縄島北部地域や渡嘉敷島、久米島にはリュウキュウヤマガメ、八重山諸島にはセマルハコガメが発達した二次林や自然度の高い山地森林で見られます。

◆林縁や裸地等のやや開けた環境には、島や標高によって棲み分けするオキナワトカゲの仲間が生息しており、山地にバーバートカゲ、平地にオキナ

ワトカゲ、宮古以南ではキシノウエトカゲが生息しています。

- ◆有毒であるハブ類は、沖縄島周辺地域にハブとヒメハブ、八重山諸島ではサキシマハブが生息しています。このほか久米島の河川には、世界でも数少ない水生のキクザトサワヘビがみられます。

【昆虫類】

- ◆本県では、現在、数千種の昆虫類が記録されており、南方系の種類や台風等で飛来する渡り昆虫が多く、固有種が多い特徴を有しています。
- ◆沖縄島北部地域の自然度の高いイタジイ林には多くの昆虫が生息し、代表的な固有種としてイタジイなどの大木の樹洞(ウロ)にヤンバルテナゴコガネやオキナワマルバネクワガタ等が生息しています。オキナワサナエ等、固有の渓流性トンボ類も多く生息し、本部半島などの石灰岩地域には県指定天然記念物のコノハチョウがみられます。
- ◆沖縄島中南部地域の低地では、主に石灰岩地に成立した樹林にコブナナフシ等の森林性昆虫が見られます。また、久米島には世界的にも珍しい水生のクメジマボタルが生息しています。
- ◆沖縄島周辺地域と宮古以南の島々では生息する昆虫の構成種は大きく異なり、宮古諸島では樹林にミヤコマドボタル等がみられます。
- ◆石垣島・西表島では、イタジイ等の森林に樹洞性のヤエヤママルバネクワガタ等の森林性昆虫が生息しています。また、河川にはイリオモテミナミヤンマ等、固有の渓流性トンボ類が生息しています。
- ◆与那国島では、平地に湿地帯が多く、ゲンゴロウ類などの多くの水生昆虫の生息地となっています。



大木の樹洞(ウロ)



ヤンバルテナゴコガネ



コノハチョウ

一口メモ：生態系の食物連鎖について

主に森林生態系でみられる動植物においても、採餌や営巣等のため陸水生態系等へ行動圏を広げる種もみられ、それぞれの生態系は食物連鎖を通して、深く結びついています。

【生態系の食物連鎖図の一例】水辺環境

『貴重動植物手帳 儀間ダム・タイ原ダムの周辺に生きる動物・植物たち』
沖縄県ダム事務所

